

## 2. 農と住の調和ゾーン

このゾーンは、ポンカンやサワーポメロなどの果樹生産をはじめとする農業が基幹産業となっています。また、高い生産技術に裏打ちされた珍しい果樹等の生産も進みつつあり、若い農業者も育ってきています。

さらに、市来農芸高校との連携を強化し、農産物の高度利用による高付加価値化産業への脱皮が求められています。

一方、居住空間と農業生産の場が混在した地域であり、周辺環境に配慮した農業生産を行っていくことが必要です。また、住宅地と近接していることにより、農産物直売所などを都市農村交流の拠点施設並びに地産地消の拠点と位置づけた振興を図っていくことも必要です。

そこで、このゾーンを「農と住の調和ゾーン」と設定し、農業のさらなる高付加価値化を図るとともに、農業と居住空間が調和した環境づくりを進めていきます。

また、スローライフ<sup>(※)</sup>やスローフード<sup>(※)</sup>などへの多様な需要に対応する農地付き住宅の整備や農村部の空き家対策を進めることにより、定住人口の増加を目指し、住み良い居住空間づくりに努めていきます。

## 3. 癒しの森ゾーン

このゾーンは、冠岳や観音ヶ池周辺をはじめとした豊かな森林資源を持つ自然環境に優れた地域です。森林資源は、多面的・公益的機能を有し、豊富な天然地下水を育む水源涵養林として、また魚などを育てる魚つき林<sup>(※)</sup>としての機能を果たすなど、下流域の生活環境や本市の水産業にも重要な役割を担っています。さらに、徐福伝説や様々な史跡など古代から現代までの歴史や文化を伝える重要な地域でもあります。

また、このゾーンは、串木野ダムや市来ダムの周辺に親水機能を有しており、市民や来訪者に対する「癒し」の空間としての整備も期待されます。

そこで、このゾーンを「癒しの森ゾーン」と設定し、林業の振興とともに、森林のさらなる保全を図り、このゾーンが有している歴史や文化を実感できる観光の振興を図ります。また、市民による環境保全への取組に対する様々な施策や環境意識の醸成などに努めます。

## 4. 海洋活力ゾーン

このゾーンは、良好な漁場や漁港を有しており、本市の水産業の拠点地域としてのさらなる振興が期待されます。また、吹上浜や変化に富んだ海岸線や海産物等の海洋資源、温泉資源を持ち、市民の憩いの場として、釣りやマリレジャーを中心とした観光の場として活用されています。さらに、串木野新港においては、甌島住民の安定したアクセス航路として欠かせない機能を持っているとともに、隣接する西薩中核工業団地は広い敷地を有しており、港湾機能の充実及び活用により、企業立地の推進が図られ、大いなる飛躍が期待されます。

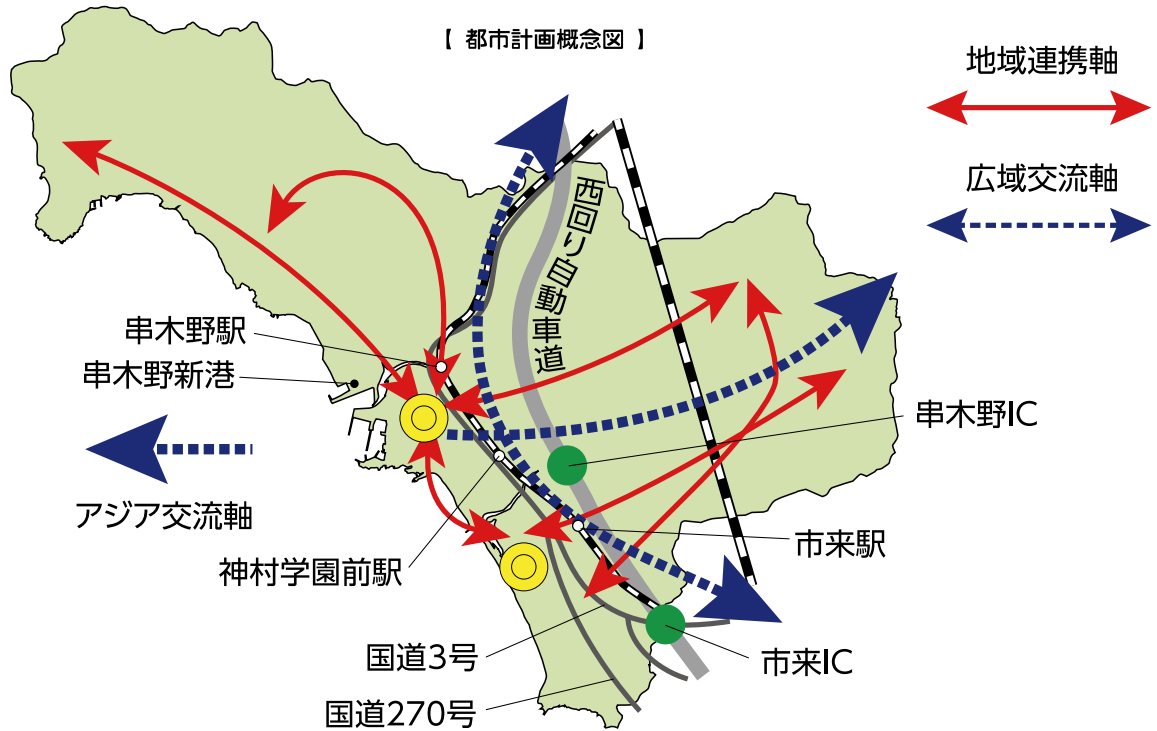
そこで、このゾーンを「海洋活力ゾーン」と設定し、美しい海岸線の保全を図ると同時に、漁業振興や企業立地、物流拠点基地化や観光振興に積極的に取り組み、本市における産業拠点として、本市の経済を牽引していくとともに、地域の雇用拡大に努めます。

※スローライフ…スピードや効率を重視した現代社会とは対照的に、ゆったりと、マイペースで人生を楽しもうというライフスタイル。

※スローフード…食生活を見直そうとする運動。伝統的な食材や料理を守り、質の良い食材を提供する小生産者を保護し、消費者に味の教育を行う。イタリアで始まった運動が世界的に広まった。

※魚つき林…海岸部に存在する森林ばかりではなく、生態系としての森と海のつながりという観点から森林の機能が再確認されていることから、広い意味で河川上流部の森林を「魚つき林」としている。

第2節 交流・連携軸



1. 地区拠点の設置

市民の利便性を確保するとともに、各地区の個性や文化を守り育てながら、活用していく地域づくりを推進するために、16地区の交流センターを拠点として、市民の積極的な自治活動を促進します。



2. 地域連携軸の設定

地域を相互に連携し、串木野新港から串木野インターチェンジ、各地区間及び各地区から幹線道路を連結する道路を「地域連携軸」として設定します。

地域連携軸の中に、本市内の観光資源をつなげ、相乗効果を発揮させる道路として、「観光連携ライン」を設定します。

「地域連携軸」やネットワークなどを活用して、生活、医療、福祉、産業面における地域間交流を促進し、本市全体の連携を強化します。

3. 広域交流軸の設定

薩摩川内市方面や鹿児島市方面、鹿児島空港方面へと広がる広域的な交流・連携を強化する軸として、南九州西回り自動車道、国道3号、国道270号、県道、甕島航路等及び鉄道を「広域交流軸」と位置づけます。

南九州西回り自動車道の早期整備を要請するとともに、串木野新港からのアクセス道路を整備し、安全で効率的な輸送を可能とするよう努めます。

串木野新港を物流拠点基地と設定し、東アジア及び東南アジア地域との交流・連携を強化する軸として、「アジア交流軸」を設定します。

## 第4章 重点プログラム

「ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」を実現するため、重点的に取り組むべき特徴的な施策を『重点プログラム』として設定します。

### 第1節 食のまちプログラム

平成21年(2009年)に食のまちづくり条例を制定し、地理的特性を生かした農林水産業やこれらと連携した食品関連産業など、「食」を特色としたまちづくりを進めています。地域の資源である「食」を活用し、地域の活性化や生活の向上を目指し、市民・事業者・行政が共通した認識のもとに主体的に参画し、協働して取り組む持続可能なまちづくりを展開することが重要となっています。

そのため、産業の振興、福祉及び健康の増進、教育及び伝承、観光及び交流、環境の保全、安全で安心な食のまちづくりなど包括的に支援し、市全体が一体となった地域の活性化に向けた取組・情報発信を進めます。

主な取組としては、農林水産業者が6次産業化を目指し、第2次・第3次産業との連携によるブランド化、高付加価値化に向けた取組の支援を行います。また、市外・海外へのPR・販路拡大に努め、産業全体の底上げや地域の特産品の知名度の向上に取り組めます。さらに、食のまちづくりネットワークに参加するなど、他市町村との連携により、相互の経済の活性化を促進します。また、安心・安全な食材の普及、食を利用した健康づくり、食の大切さを知る食育の推進に努めます。



## 第2節 環境維新プログラム

多様なエネルギー源の確保や環境への適合の観点から再生可能エネルギーや省エネルギーの必要性が高まっており、公共施設・家庭・事業所が一体となって環境負荷の軽減に取り組む必要があります。

これまで、西薩中核工業団地を中心に太陽光発電の設置促進等に取り組んできており、また、電力システム改革に伴い、民間と行政が共同して設立した地域新電力事業を中心として、公共施設・家庭・事業所への電力供給とともに再生可能エネルギーの拡充を図り、エネルギーと産業おこしを組み合わせた環境維新のまちづくりを推進します。

再生可能エネルギーでは、太陽光発電・洋上風力発電・バイオマス発電などの導入促進のほか、電力や熱を工業団地や農林水産業に活用する地産地消型の取組により経済の活性化を図ります。省エネルギーでは、地球温暖化対策として電気自動車などの次世代自動車の導入促進や家庭・事業所向け・工場向けのエネルギーマネジメントシステム<sup>(※)</sup>の導入促進などによる地域全体のスマートシティ<sup>(※)</sup>化を検討します。また、蓄エネルギーでは、災害時への対応強化のため、蓄電池の導入促進などにより市民生活の安心・安全及び利便性向上を図ります。



※エネルギーマネジメントシステム…情報通信技術を活用して、家庭やオフィスビル、工場などのエネルギーの使用状況をリアルタイムに把握・管理し、最適化するシステム。

※スマートシティ…電力の有効利用や再生可能エネルギーの活用を、地域の交通システム、市民のライフスタイルの変革などを複合的に組み合わせた次世代エネルギー・社会システムの概念。

### 第3節 国際化推進プログラム

これまで、米国サリナス市と姉妹都市盟約を結び、交流のさらなる発展を図ってきました。引き続き、姉妹都市と交流を進めていくことや、近年経済発展が目覚ましい東アジア及び東南アジアと交流を図ることは、国際化に伴う人材の育成、産業の振興を図るうえで非常に重要です。

現在、市内にはアジア各国からの留学生が滞在し、学業以外にも市内事業者との連携を深めています。国際化に向けた人材及び団体の育成や英語のまちづくりの推進など、国際交流の基盤強化に取り組み、外国人にも暮らしやすいまちづくりに努め、経済交流だけでなく人と人とのつながりにより、市民・事業者・行政が連携して国際化を進めます。

さらに、産業では、市内事業者が行う海外展示会への出展などの販路開拓を支援し、官民連携して取り組むことで、これまで積み上げてきた食のまちづくりに加えて、将来的な開港促進に向けた串木野新港の利用拡大等、人・モノ・情報が行き交う世界に拓かれた国際色豊かなまちづくりを進めます。



### 第4節 ひとづくり推進プログラム

まちづくりは「ひとづくり」です。なかでも、若い世代を中心とした人材育成は、本市のさらなる飛躍と発展の原動力となります。

特色ある教育の実施と安全で安心して学習できる環境の充実により児童生徒に「確かな学力」を身に付けさせ、「豊かな心」と「健やかな体」を育みます。

また、健やかに安心して子育てができるよう、結婚、妊娠、出産、子育ての切れ目ない支援により子どもを産み育てる環境の充実を図ります。

さらに、本市の特色を生かした教育の推進を図るとともに、地域の高校活性化や国際交流、リーダー育成の取組などを通じ、次代を担う「ひとづくり」を進めます。



